

林間学校のお風呂、クラス全員に裸を見られた思い出

あれは小学校5年生の夏、林間学校での忘れられない夜だった。山奥の宿泊施設での2泊3日のキャンプは、ハイキングやキャンプファイヤーで大盛り上がりだったけど、一番心に残っているのは、入浴タイムでのとんでもないハプニングだ。

入浴はクラスごとに時間割が決まっており、1クラスずつ順番に浴室を使うルールだった。でも、施設の脱衣所はびっくりするほど狭く、全員が一度に入るのは無理だった。スケジュールが詰まっていて、次のクラスは浴室前の廊下で整列して待機しなきゃいけなかった。男子には「部屋で服を脱いで、パンツ一枚で廊下に並びなさい」という指示が出され、女子の私たちはタオルを抱

えて待ってる間に、男子たちがぞろぞろやってくるのを見ていた。

男子たちは、ほとんどが白いブリーフ、たまに色付きのトランクス姿で、肩をすぼめてモジモジしながら並んでた。いつもやんちゃな翔太くんは、ブリーフのゴムをピチピチ鳴らして「うわ、寒っ！」ってふざけてたけど、目がキョロキョロして、めっちゃ恥ずかしそうだった。優等生の健太くんは、顔を真っ赤にして俯いて、まるで「見ないでくれ」ってオーラ全開。女子の間では、梅歌ちゃんが「ねえ、翔太くんのパンツ、ちょっとダサイね！」って小声で囁き、弥奈ちゃんが「しー！ 聞こえたら可哀想じゃん！」って慌ててた。私も、男子のパンツ姿をこんな近くで見るなんて初めてで、心臓がドキドキして、目をどこにやっていいか分からなかった。いつも教室で騒がしい男子たちが、こんな無防備な姿でいるのって、なんか不思議だった。

でも、事態はもっと衝撃的な方向に進んだ。入浴時間が押していたらしく、担任の佐藤先生が、廊下にドカドカ入ってきて、こう叫んだ。

「男子！ 時間がないから、ここでパンツ脱いじゃいなさい！ ほら、早く！」

その瞬間、廊下が静まり返った。男子たちの顔は一気にトマトみたいに真っ赤になり、女子の間からは「え、うそ！？」「マジ！？」って小さな悲鳴が漏れた。私も頭の中で「え、先生、冗談でしょ！？」って叫んでた。テレビで男の子の裸が普通に映るような時代だったけど、クラスの男子が女子全員と先生の前でパンツを脱ぐなんて、想像もしてなかった。

「えー！ やだよ、先生！ 恥ずかしいって！」と、翔太くんが叫んだ。いつもふざけてる翔太くんだけど、この時ばかりは本気で嫌がってるのが分かった。隣の龍太くん——クラスのリーダー格で、いつも堂々とし

てる子——も「いや、さすがに…」ってブツブツ文句言ってた。でも、佐藤先生は容赦ない。「時間が無いんだから、早くしなさい！」って、ピシヤリと一喝。先生の目がキラッと光って、なんか「この状況、ちょっと面白がってる？」って気配がした。

最初にパンツを脱ぎ始めたのは、大人しい優斗くんだった。いつも静かで図書室で本を読んでるイメージの優斗くんが、顔を真っ赤にして、チラッと女子の方を見た後、すぐに目を逸らして、白いブリーフをスルッと下げた。